

編集 後記

梅雨に入り鬱陶しい季節となりましたが、通勤電車の車窓より美しく咲いた紫陽花を楽しむことができ、心が和みます。本号では、論壇1編、資料2編、公衆衛生活動報告1編が掲載されました。

論壇は、我が国の公衆衛生大学院教育に関する課題ならびに実務家の能力を高めるためのコンピテンシー策定の必要性が述べられています。我が国における公衆衛生大学院は Wikipedia には11校リストされており（もちろん学生に Wikipedia を参照することを推奨していませんが）、今後も数校が設置準備をしているようです。専門職大学院と従来型の大学院とではコンピテンシーが異なることも考えられ必ずしも統一的な見解は得られないかもしれませんが、今後、公衆衛生大学院での教育の在り方等について誌上での議論が展開されるとおもしろいのではないかと感じながら読ませていただきました。

資料は、中学生に対して高齢者のイメージや高齢者を支援する社会資源への関心の実態を調査した研究と、歯科疾患実態調査の協力率に関する検討の2編、公衆衛生活動報告は感染症の保育園サーベイランスの活用状況に関する報告で、いずれも興味深い内容でした。中学生が「お年寄り」をイメージする平均年齢は71.3歳ということであり、自分自身が中学生だった頃とあまりイメージが変わっていないことは意外でした。

さて、当学会誌は1995年（第42巻）1月号より20年以上にわたる掲載論文が学会ホームページで全文公開されており、日本国内はもとより、世界中よりアクセスが可能となっています。我が国における公衆衛生領域の多くの研究成果が世界中に発信されていることはもちろん意義深いことでありますが、「日本語」で執筆されている論文が海外の研究者や実務家に広く読まれることは当然のことながら期待できません。グローバル化の必要性が叫ばれて久しい中、本雑誌も英文での投稿をこれまで以上に強く推奨し英語比率を高めていくのか、このままドメスティックな道を歩んでいくのか、大いに考えどころではないでしょうか。（池田俊也）

次号予告（第63巻・第7号）

原著

家族関係社会支出の国際比較および合計特殊出生率との関連検討……………元木愛理，他
保健師選択制導入前後における学生の技術到達度と実習体験に関する評価……………鈴木良美，他

研究ノート

病院に勤務する看護師の分布とその関連要因の検討……………坂田弥生，他

資料

市町村における「健やか親子21」に関する母子保健統計情報の利活用の現状と課題：
都道府県による集計分析および課題抽出の支援を受けた市町村の観察……………上原里程，他